江東呼二篷篠一爲二簾、音廢、按此云レ粗者、與二上篷篠一別言レ之、篷篠、其精者也、晉語毛詩皆云、从レ竹遽聲、彊魚切、五部、篷篠不レ可レ使レ俯、此謂捲二篷篠一而豎レ之、其物不レ可レ俯、故詩風以言二醜惡一、爾雅以名二口柔一也、

〔守貞漫稿後集三〕駕車　網代輿

晴ノ時用レ之、從者モ裏打ヲ著スト云リ、今世乘物ニハ上極トス、

〔三光院内府記〕輿乘馬之事

網代者准レ車也、仍路頭之禮無レ之、或寺中、或下馬下車之在所、一向不レ拘二其禮一乘打也、依レ之男子者、忍之時乘レ之、女房者、迄二中蔀一掛二下輿一、末々者、下簾無レ之、亦尼者、雖二貴人一不レ掛二下簾一、是偏捨レ世之儀歟、

〔故實拾要六〕網代輿

是親王、攝家、清華家、常輿也、諸家中モ晴ノ時乘レ之、但依レ家有二用捨一歟、

〔婚禮問答〕こしは、白木のこしたるべく候哉如何、白木のこし用事、本儀候、略儀には網代ごしを用也、常にはぬりごしを用也、略儀也、網代ごしは、青竹を細くうすく削り、あじろを組てこしにはり、黑ぬりのおしぶちを打也、

〔成氏年中行事正月〕一同十一日、御評定始、〇中略評定奉行、政所、問注所、其外ノ衆中ハ、皆面ノ御門ヨリ出仕、網代輿也、

〔太平記三〕主上御二沒落笠置一之事

俄ノ事ニテ、網代輿ダニ無リケレバ、張輿ノ怪ゲナルニ、扶乘セ進セテ、先南都ノ内山ヘ入奉ル、

〔增鏡十五村時雨〕十月〇元弘元年三日、都へ入せ給ふも、〇後醍醐思ひしに替りて、いとすさまじげなる武士ども、衞府の佐の心ちして、御輿近く打圍みたり、鳳輦にはあらぬ、網代輿のあやしきにぞたてまつれる、

〔太平記九〕主上上皇御沈落事